

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号

平成25年(2013)7月1日



生活を整える。

校長 市川 幸男

今年の梅雨は、入梅時こそ、空梅雨と云われ、真夏のような暑い日が続きましたが、6月中頃あたりから、毎日のように曇り空が広がり、梅雨らしい日が続いております。それでも子ども達は、降りしきる雨を恨めしそうに見上げながらも、それぞれに工夫して、元気に過ごしております。外で遊べない、そのときに学級の中でいかに生活を楽しむのか、必要は新たな改善を生み出すもとのです。与えられた条件に不満を漏らすこともあるでしょうが、それだけに留まらず、制限された条件の下、少しでもより楽しく、より豊かに改善点を見つけ、生活を向上させていく素晴らしい姿勢だと思います。

さてこの頃、機会あって他の学校を訪問することが多くありました。予定の時間よりも少し早く着いた時、すぐに目的の部屋に行かず、いろいろその学校の様子を見て回ることがあります。その中で、いくつかのことに触れ、千秀小学校への振り返りとなったところがあったのでご紹介します

その1つは、「児童の玄関＝昇降口の下駄箱」です。靴のかかところがそろえて入れてある光景を見ると、ほっと致します。靴の入れ方ひとつで、その学校の子供達が、落ち着いて生活できているかどうか分ります。靴をそろえることは、誰にでもできることですが、全員の靴のかかところがそろっているということは、とても難しいことです。振り返って本校の靴箱を見てみると、残念ながら全員というわけではありませんが、殆どはそろえて入れてありました。きっと千秀小の子供たちは自分の家に帰ってからも、脱いだ靴をきちんとそろえておくのだろうと推察し、ついにここにしまいました。禅宗のお寺など行くと、玄関に「脚下照顧(きゃっかしょうこ)」とか「看脚下(かんきゃっか)」などと書かれた立て札を見かけます。いずれも「足下を見なさい」から転じて「履物をそろえましょう」と標語的に使われています。履物をそろえることで自分の足下を見る。つまり自分の置かれた立場を鑑みて心の落ち着きをもって過ごしましょう。という真意でしょうが、本校の子供たちにも常に足下を振り返り、心のゆとりをもった生活ぶりを楽しんで欲しいと思っています。

2つ目は、「あいさつがよくできる学校は気持ち良い。」ということです。訪問先の学校の校門を入った時から、すれ違う児童や生徒から、「おはようございます」や「こんにちは。」の声かけとさわやかな笑顔をいただくことが幾度かありました。たったそれだけのことですが、その日一日、会議等での話も自然と柔らかな言葉を選び、何か嬉しい気持ちでいられました。子供たちにとっては、訪問者は見ず知らずの人でありよく分からない人に映っていると思います。にもかかわらず、元気に挨拶できるのは「学校に来た人は皆、私たちのお客様。お客様は大事にする。」の心がしっかりと育てられているのだなあと感心いたしました。そんな折、千秀小学校に他の学校の先生が授業の様子を見学に来ました。その際、廊下等で、みなさんが元気な声であいさつをしてくれたので、「この学校の子は元気がいいですね。」「あいさつがしっかりできますね。」とほめてくださいました。とても嬉しかったです。挨拶は交わすものでなく、自分の心を投げかけるもの。それが、交わすになり、会話に結びついていくものだと思います。これからも千秀小学校全体が挨拶を大切に、豊かな交流の場であるよう、子供たちと職員、そして保護者が連携して参りたいと存じます。

さて、あと3週間で夏休みになります。暑い日が続くと思いますが、子供たちが勉強に運動にしっかり頑張る、気持ちよく夏休みを迎えられるよう努めて参りたいと存じます。